

JMFI NEWS

【ジェイエムエフアイ・ニュース】

特別編

JAPAN Material Flow Institute

No.26 (2017年10月号)

発行 ● 一般社団法人 日本マテリアルフロー研究センター

〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-47-6 202

TEL ● 03-3988-2671 / FAX ● 03-3980-6588

URL ● <http://www.mf-p.jp>

第2回定時総会が無事終了 懇親会を盛大に開催，100名超が参集

国交省・重田審議官，経産省・小瀬審議官が祝辞，
JMFI松浦理事（ニトリ）他が挨拶

各議案は全会一致で承認

一般社団法人 日本マテリアルフロー研究センター（JMFI）は8月25日，東京・千代田区の如水会館で第2回定時総会を開催しました。JMFIは昨年11月18日の設立総会をもって会員52社で正式に活動を開始しましたが，現在では74社（図表1）の規模まで拡大。研究会などの準備会議も進捗し，いよいよ活動を本格

化させる段階にこぎつけ，この日を迎えました。

当日の理事会・総会では最初に大庭靖雄JMFI会長が挨拶し，「今後さらに事業を拡充していきたいので協力をお願いしたい」と，会員各社に呼び掛けました。続いて平成28年度の事業報告・決算報告，平成29年度事業計画が審議され，いずれも全会一致で承認されました。また役

員の改選も行われました。役員の新たな陣容は図表2の通りです。

総会終了後には，同会館で懇親会が開催されました。参加会員のほか，多数の来賓を迎え，国土交通省からは物流審議官の重田雅史氏，総合政策局国際物流課長の町田倫代氏，経済産業省からは大臣官房審議官（商務流通・国際博覧会担当）の小瀬達之氏，商務情報政策局 商務・サービスグループ 物流企画室室長補佐の百瀬智史氏が出席。さらに物流関連団体の代表，JMFIが主催するアジア・シームレス物流フォーラムの企画・実行委員など関係各方面から計約100名の参加がありました。

冒頭，大庭靖雄 JMFI会長の挨拶の後，来賓の重田氏と小瀬氏の両名から祝辞を頂き，さらに会員を代表してJMFI理事の（株）ニトリホールディングス上席執行役員（株）ホームロジスティクス代表取締役社長・松浦学氏の挨拶と乾杯の発声をもって，歓談に移りました。また中締めには



総会の模様

図表1 JMF I会員名簿

(平成29年8月25日現在)

番号	企業名	番号	企業名	番号	企業名
1	アサヒグループホールディングス株式会社	26	システムズ・デザイン株式会社	51	日本通運株式会社
2	味の素物流株式会社	27	株式会社シーネット	52	日本パレットレンタル株式会社
3	アマノ株式会社	28	ジック株式会社	53	株式会社Hacobu
4	イーソーコ株式会社	29	株式会社スギヤス	54	株式会社パワー工業
5	イオングローバルSCM株式会社	30	鈴与システムテクノロジー株式会社	55	株式会社日立ソリューションズ東日本
6	伊東電機株式会社	31	センコー株式会社	56	株式会社日立物流
7	株式会社イトーキ	32	全国通運株式会社	57	株式会社ビーリンク
8	上野興産株式会社	33	株式会社SOUCO	58	プロロジス
9	株式会社エスピーック	34	株式会社ダイアログ	59	株式会社丸和運輸機関
10	オークラ輸送機株式会社	35	株式会社ダイフク	60	水岩運送株式会社
11	株式会社オープンロジ	36	タカラ物流システム株式会社	61	富士電機株式会社
12	株式会社岡村製作所	37	株式会社タクテック	62	三井倉庫ロジスティクス株式会社
13	カシオ計算機株式会社	38	株式会社ディーエムエス	63	三井不動産株式会社
14	株式会社協和製作所	39	株式会社デンソーウェーブ	64	三菱食品株式会社
15	グローバル・ロジスティック・プロパティーズ株式会社	40	株式会社ツールマート	65	メイプルツリーインベストメンツジャパン株式会社
16	コアソリューション株式会社	41	株式会社東芝	66	株式会社山善
17	鴻池運輸株式会社	42	トヨタL&F東京株式会社	67	ヤマトホールディングス株式会社
18	SGホールディングス株式会社	43	トランコム株式会社	68	優成監査法人
19	株式会社サトー	44	株式会社ナンセイ	69	郵船ロジスティクス株式会社
20	三機工業株式会社	45	日建リース工業株式会社	70	株式会社流通研究社
21	山九株式会社	46	日産自動車株式会社	71	株式会社ローソン
22	三甲株式会社	47	株式会社ニトリホールディングス	72	ロジデザイン株式会社
23	三進金属工業株式会社	48	株式会社日本アクセス	73	株式会社ワコーパレット
24	サンスター株式会社	49	日本貨物鉄道株式会社	74	株式会社をくだ屋技研
25	シーオス株式会社	50	日本電気株式会社		

図表2 JMF I役員名簿

(平成29年8月25日現在)

	役職	勤務形態	氏名	所属企業名	備考
1	代表理事 会長	非常勤	大庭 靖雄	株式会社NAAファシリティーズ 取締役相談役	
2	代表理事 副会長	非常勤	間野 勉	株式会社流通研究社 代表取締役会長	再任
3	専務理事	常勤	小池 勉	(一社)日本マテリアルフロー研究センター	再任
4	常務理事	非常勤	菊田 一郎	株式会社流通研究社 代表取締役社長	再任
5	常務理事	常勤	畠田 幸男	(一社)日本マテリアルフロー研究センター	
6	常務理事	常勤	北居 学	(一社)日本マテリアルフロー研究センター	就任
7	理事	非常勤	井岡 康治	SGホールディングス株式会社 執行役員 オープンプラットフォーム企画担当	
8	理事	非常勤	井口 博実	日本通運株式会社 事業開発部 部長	
9	理事	非常勤	恵谷 洋	三井倉庫ロジスティクス株式会社 取締役 執行役員	
10	理事	非常勤	大庫 大輔	オークラ輸送機株式会社 常務取締役 営業本部長	
11	理事	非常勤	加納 尚美	日本パレットレンタル株式会社 代表取締役社長	
12	理事	非常勤	下代 博	株式会社ダイフク 取締役常務執行役員 FA&DA事業部	
13	理事	非常勤	小林 史男	(一社)日本物流システム機器協会 前会長	
14	理事	非常勤	田中 従雅	ヤマトホールディングス株式会社 執行役員 IT戦略担当	
15	理事	非常勤	田中 純夫	ロジデザイン株式会社 代表取締役	
16	理事	非常勤	松浦 学	株式会社ニトリホールディングス 上席執行役員	
1	監事	非常勤	川野 信夫	株式会社センシン 代表	就任

同じくJMF I理事で(株)三井倉庫ロジスティクス取締役執行役員の恵谷洋氏が登壇し、一本締めで会を締め括りました。

JMF Iの活動に来賓各氏からエール懇親会における大庭JMF I会長と来賓各氏の挨拶内容(要旨)を以下、発言順にご紹介します。新生団体

JMF Iにふさわしく、従来の型にとらわれない生き活きとしたコメントが寄せられました。

総合物流施策大綱と軌を一にする活動を

大庭靖雄 | JMFI会長

当研究センター (JMFI) 設立の狙いは、「マテリアルフロー (物流) を核としてロジスティクス・サプライチェーンの課題を智恵で解決しよう」というもの。大きなサプライチェーンの中であって、各社はそれぞれロジスティクスをどう改善するか、どう競争力を高めるかに取り組んでいる。しかし自社にだけ最適な解を求め続けていくと、結果的に不都合が生じてしまう。トラック業界におけるドライバー不足もその一例だろう。

JMFIはロジスティクスの改善に同じ志を持つ者同志が、WIN-WINの改善を見出すため、協働研究のプラットフォームとなることを目指している。発足時の52社が現時点で74社にまで増えた。プラットフォームの土台が次第にできてきたと思う。

政府は7月28日、新しい総合物流施策大綱を閣議決定された。「強い物流」を作り上げていくため、第1に「つながる」というキーワードを掲げ、サプライチェーン全体の効率化を進め、価値創造に資する物流への変革を目指すとした。競い争う「競争」から、共に創造する「共創」に変えることで、全体最適化を目指すという方向付けがされている。

これは当研究センターの目指すところとまさに軌を一にしており、今回の大綱がわれわれの背中を押して

頂いていると、大変嬉しい思いがしている。まだ設立総会から1年に満たず、成果を生むのはこれからとなるが、これからも政府としっかり連携しながらロジスティクスの改善という成果を目指して活動を進めていくので、皆様のお力添えをいただきたい。

新しい智恵の出るプラットフォームとして期待

重田雅史 | 国土交通省 物流審議官

大庭会長はJMFIの成果が生まれるのはまだこれからと仰ったが、すでに1つの実績がある。昨年、前国土交通大臣の太田昭宏衆院議員から私に、大庭会長やJMFIについて問い合わせを受けた。月刊マテリアルフロー誌上で大庭会長と対談するので説明して欲しいということだった。

私は説明に伺ったが、この対談で太田議員は、物流は重要な産業であり、運送や倉庫、道路整備、また経済産業省の行政も含め別個に取り上げるのではなく、皆が集まってそれをインテグレートすることで価値が生まれるものではないかと仰っていた。対談が掲載された本誌2017年2月号を拝見すると、非常に良くまとめられており、十分に実績になっていると思う。

太田議員は、これまで伝統的な物流の知見やノウハウが日本経済を支

えてきたが、労働集約的な形で若干疲れてきたのであれば、IT、ベンチャーなど新しい人たちに入って来てもらい、乗り切っていくべきではないかとも語っていた。大庭会長も、JMFIのプラットフォームがあればそうした智恵が生まれてくると、その意義を指摘された。

会長には総合物流施策大綱にも触れていただいた。これからの4年間の物流施策をまとめたものだが、直近で苦しいのは労働力の課題だろう。今の7,700万人の生産年齢労働人口は、あと25年で2,000万人減る。今のドライバーの有効求人倍率は2.6だが、これが1.0に戻ることはない。ならば現場の生産性をどう上げていくか。そこに新しいテクノロジー、イノベーションをもって、皆で変えていくことで初めて持続可能になり、WIN-WINになるのだと思う。

物流の持続可能性について疑問が持たれる時、最近では通販業者が悪く言われることもあるが、新しいビジネスモデルを展開して消費者のニーズに応えると、副作用も出る。誰かが一方的に悪いのではない。皆それぞれ懸命に仕事をする中でどこかに無理が生じている。その無理な部分を1つひとつ、柔らかくしていくことが重要だ。

今のシステム、ビジネスモデル、インフラ体系を、2020年を目指して少しずつ工夫して変えていくことで、「強い物流」が生まれるのではないかと思う。JMFIには、そうした新しい智恵の出るプラットフォームとして、ますます活躍いただくことを期待している。

将来を見据えた先端研究と協働を応援

小瀬達之 | 経済産業省 大臣官房審議官

2期目を迎えたJMFIの目的は、物



大庭 靖雄氏



重田 雅史氏

流の全体最適化に向けて、次世代のシステムを連携させ、WIN-WINで作っていかうということだと理解している。経済産業省も新たな技術でサプライチェーンの最適化を目指しているが、新技術を効果的に活用するには連携や協働が必要になる。

経済産業省は今年春、「コンビニ電子タグ1000億枚宣言」を策定した。大手コンビニ5社と合意して、1枚1円を実現するという留保条件付きではあるが、2025年までに全商品に電子タグ(RFID)を付ける。タグを1円にするためには研究開発に加え、コンビニ以外にスーパーやドラッグストアにも輪を広げ、より多くの枚数が使われなければならない。

普及には電子機器メーカーの協力や、タギングでは消費財メーカーの了解も必要だ。宣言の実現のためには連携、WIN-WINが絶対に必要になる。そのためには電子タグの効果、メリットを丁寧に示していくことが必要だと思っている。

経済産業省は第4次産業革命、AI、IoTの旗も振らせて頂いているが、物流の足元を見ると非効率な慣習が多く残り、機械化の遅れ、IT化の遅れなどが物流イノベーションの妨げになりかねない問題となっている。先端技術を使わなくても連携、協働によって解決できることがまだある。

JMFIの発足前から、流通研究社では「アジア・シームレス物流フォーラム」を開催し、大勢の来場者を集め、物流の発展のために議論を重ね、

情報発信をしてこられた。2期目を迎えてJMFIの体制を整備し、ますます取り組みを強化されようとしている。

実態に即した多様な智恵を活かし、将来を見据えた研究と情報発信を積極的に行うことを期待しており、経済産業省としてもぜひ応援していきたいと考えている。

〈乾杯発声〉

新たな取り組みを進める決意に 新たな価値

松浦 学 | ニトリホールディングス
上席執行役員 / JMFI理事

私がニトリホールディングスに入社して早3年、当時からニトリグループの中でも「宇宙人」と言われているが、これは私にとって褒め言葉で、嬉しく思っている。

JMFIにおいても同様なのだが、新参者としてひと言だけ言わせていただくと、諸先輩方はすべて正しい話をされていると思う。物流・流通関連分野には多くの老舗団体がある中で、JMFIという新しい団体を立ち上げ、新しい取り組みを進める決意をしたことに価値があるのだと思う。

日本はベンチャーが生まれにくい国といわれるが、予定調和の中に収まることなく、無理なものは無理と言える、そういうフィールドを作ることが大事だ。大庭会長はJMFIの実績がまだこれからと言われたが、

この何年かでイノベーションを生み出すことに、私も少しでも貢献できたらと思っている。

物流は我慢強い業界であるようだが、いつまでも我慢せずに、今の体勢のまま無理なものは無理と言って、新しい団体が新しいことをやる。社内でも他業界に対しても声を上げ、日本の産業界をもっと近代化し変えていく。今日の総会はその1年目の節目を祝って、杯をあげたい。乾杯！

〈中締挨拶〉

連携・シェアリングの 実践の場に

恵谷 洋 | 三井倉庫ロジスティクス
取締役執行役員 / JMFI理事

JMFIに参加させて頂くにあたって私自身、サプライチェーン・マネジメントの本質とは、マクロとミクロの両レベルで受給をマッチングしていくことではないか / ロジスティクスは縦割りで最適化されるものではなく、横の連携とシェアリングが必要ではないか / JMFIの場ではそれを研究するだけではなく、実践できるのではないかと——そんな思いを込め、これまで活動に取り組ませて頂いてきた。

研究会も始まったばかりで具体的な結果が出せるのはこれからとなるが、JMFIを、社会に今こそ求められているこのような研究ができる場にしていきたいと思っている。では、お手を拝借！

MF



小瀬 達之氏



松浦 学氏



恵谷 洋氏